

# 専徳寺報

第474号

令和5年6月8日発行

浄土真宗本願寺派

専徳寺

①

②

〒740-0044 岩国市通津2764  
☎0827-38-1124 FAX38-1000

①<http://sentokuji-iwakuni.net/>

専徳寺

検索



②動画ちゃんねる「ひかりといのちきわみなき」

ついたち礼拝(月のはじめは礼拝日) 7月1日 午前9時より45分間 ※8月はお休みです

## 雨安居(仏婦法座)

御案内

恵みの雨の時節です。ご一緒にお聴聞につとめ、如来さまのお慈悲の雨に濡れます。仏婦主催ですが、男性の参詣も大いにお待ちしています。

日程

6月19日(月)

昼 1時30分〜3時30分

講師 本願寺布教使

舟川 智也 師 (行橋市)

※初めてご来講賜ります。



●参拝セット(念珠・聖典・門徒式章・聴聞カード) どうぞお持ちください。

フルトップを回収します

ご参拝の際で結構です。ご協力よろしくお願いたします。



## 慶讃法要が円成(5月21日)

3月29日からご本山(西本願寺)で始まった慶讃法要も、親鸞聖人ご誕生日である5月21日、無事に円成しました。計53座つとまったこの法要では、様々な記念行事や協賛行事の参加を含め、国内外から7万5000人の参拝がありました。専徳寺は4名(河本多喜子、通谷みえ子、前坊守、住職)、岩国組の団体参拝にてこのご勝縁にあうことができました。また聖人お得度の地「青蓮院」を拝観し、京都の「都おどり」を観賞しました。



5月6日のシンポジウムの様子。島菫進さん(宗教学者)、釈徹宗さん(相愛大学学長)、そして池上彰さん(ジャーナリスト)が、現代社会に宿る様々な問題について討論を行いました。



如来・人・言葉 130

青色には青光、黄色には黄光、赤色には赤光、白色には白光ありて

(仏説阿弥陀经)

『阿弥陀经』では、浄土の莊嚴を詳しく説き示してくださっています。その中の一場面、浄土の七宝の池には、車輪ほどもある大きな蓮の花が咲きほこり、その蓮の花が、青い花は青い光を放ち、黄色い花は黄色い光、赤い花は赤い光、白い花は白い光を放つと説かれてる部分です。

2022 (令和4) 年度 専徳寺仏教婦人会決算報告

収入 2022/04/01~2023/3/31

費目	決算額
1 専徳寺門徒講金	80,000
2 仏婦法座御法礼	201,000
3 貯金利息	4
4 繰越金	531,973
歳入合計	812,977

支出

費目	決算額
1 仏婦法座	165,665
2 めぐみ本代	15,710
3 仏婦年会費	8,000
4 研修会費	5,000
岩国組仏婦総会	3,000
山口教区仏婦連盟役員会	2,000
5 交通費	9,960
6 交際費	30,000
お歳暮、お中元	20,000
香典	10,000
7 消耗品	220
歳出合計	234,555

収入合計	812,977
支出合計	234,555
差引額	578,422 円

2022 (令和4) 年度 ダーナ収支会計報告

収入 2022/04/01~2023/3/31

費目	決算額
1 収入	12,362
2 貯金利息	4
3 繰越金	434,419
歳入合計	446,785

支出

費目	決算額
1 ダーナ	0
歳出合計	0

収入合計	446,785
支出合計	0
差引額	446,785 円

上記収支会計は適正に処理されていることを認めます

令和 5 年 5 月 23 日

三井初美 (印)  
岩中みどり (印)

何のことはない、当たり前ではないかと思われ  
るかもしれませんが、私たちは、この当たり前前  
のことが、なかなかできません。青い花が白い光を  
放とうとする生き方ばかりを送っています。

最近、「アンチ・エイジング」などと言って、  
少しでも若くして見せようと躍起になっていま  
す。白髪を染めたり、しわを隠すクリームを塗っ  
たり、「無駄な抵抗」に余念がありません。かく  
言う私も、少しでも若く見せたいと思っていま  
すし、食事に行った時に、お店の娘から「お客さん  
若いですね」と言われたら、お世辞だとわかっ  
ても、単純に喜びます。反対に、若かった頃は  
背伸びをしたいと思っていたでしょう。子ども  
時には、タバコを吸う真似をよくしていました。  
本当の自分に自信がないからでしょうね。格好を  
つけたり、着飾ったり、嘘で固めた毎日を送っ  
ています。

「若くて健康なのが一番だ」という価値観だと、  
いつか必ず裏切られます。老・病・死は必ずやっ  
て来るからです。老いはさみしく、病はつらいも  
のですが、老いは老いの中にあつて、精いっぱい  
に輝いていける道がお念仏です。

金子みすゞさんの詩に、

みんなががって、みんないい。

という一文がありました。一人ひとりには、みん  
なちがった個性があり、持ち味があります。役に  
立つのか立たないのか、好きか嫌いか、そんな価  
値観ではなく、いのちそのものが精いっぱい輝  
いた生き方をうたった詩なのだと思えます。

浄土の風光を「おとぎ話だ」という人がいま  
す。が、そうでしょうか。

「浄土は広大無切際で、無自性空の世界です」  
こう言われても私たちは、「ああ、そうですか」  
と思うだけです。

「どう説いたら、衆生は浄土に往生したいと思っ  
てくれるだろうか」

お釈迦さまの、私たち凡夫に対するやるせない  
思いが、「浄土は、すばらしい世界ですよ」との  
ご教示になったのでしょうか。そして、浄土の莊嚴  
を知ることによって、今の私たちの生き方が反省  
させられます。浄土は、私たちの姿を映す、法の  
鏡でもあるのです。ただのおとぎ話ではありません  
ね。

(満井秀城「珠玉のことばたち」より)

寺内だより

●み仏にいだかれて〔葬儀勤修〕

●ご恩を偲びて

〔法事勤修〕  
(5月8日~6月4日)

